

RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018 Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン第1弾 決定のご案内

2018年11月17日（土）・18日（日）に鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018」を開催いたします。

本イベント内で行われ、東アジア初となる注目イベント「Masters Historic Formula One」公式レースの出場マシン第1弾として、1970年代に活躍した5台のマシンの参戦が決定いたしました。

「Masters Historic Formula One」レースには、今回発表するマシンを含む約20台のマシンが出場予定で、その他の出場マシンは決定次第ご案内いたします。

Masters Historic Formula Oneレース 出場マシン Vol.1

1971 Tyrrell 002 [Stewart Class]

＜解説＞ ティレル002は1971年シーズン用に製作された、セカンドドライバーのフランソワ・セヴェール専用マシン。基本的な構成は前年デビューの001と同じだが、長身のセヴェールに合わせたロングホイールベース・シャシーが最大の特徴。開幕戦の南アフリカでデビュー。当初はウイングノーズだったが、イギリスGPからスポーツカーノーズを使用し、最終戦アメリカGPでは苦戦を強いられつつもセヴェールが生涯唯一の勝利を飾っている。オーナー & ドライバーは昨年001で出場した世界的なティレル・コレクターのジョン・ディレーンである。



1972 March 721G [Stewart Class]

＜解説＞ DFVとアルファロメオ製ギヤボックスの間にデフを配置する特異なレイアウトでデビューした1972年用の721Xが失敗に終わったのを受け、F2の722をベース（71年終盤に711ベースで作られた721とは別物）に急遽9日間で設計されたといわれる1台。しかしながらワークスのロニー・ピーターソンとニキ・ラウダのドライブで善戦。ドイツGPではピーターソンが3位表彰台を獲得している。シーズン終了後に改修され翌年も731として使用されたほか、1台がヘスケス・レーシングに売却され、若き日のジェームス・ハントもドライブした。



1973 Shadow DN1 [Fittipaldi Class]

＜解説＞ ドン・ニコルズ率いるシャドウ・レーシング・カーズ初のF1マシン。設計を担当したのはBRMから移籍したトニー・サウスゲートで、有機的なボディフォルムが特徴。ジャッキー・オリヴァーとジョージ・フォルマーの2カー体制で第3戦南アフリカGPから参戦を開始している。当初はシャシーの剛性不足が指摘されたが、シーズン中に2度の3位表彰台を獲得。キース・フリーサーの所有するシャシーナンバーDN1-6AはドイツGPから投入された個体で、第14戦カナダGPではオリヴァーが3位入賞を果たした履歴をもつ。



1974 Hesketh 308B [Fittipaldi Class]

<解説> レース好きの大富豪、アレキサンダー・ヘスケス卿が設立したヘスケスは、マーチ731を購入してジェームス・ハントとともに73年からF1挑戦をスタート。74年には元マーチのハーベイ・ポスルスウェイトが設計したオリジナルマシン308を投入する。昨年のSUZUKA Sound of ENGINEにも参加したジェームス・ヘイガンのマシンはシャシーナンバー「1」で、4月にブランズハッチで行われた非選手権のBRDCインターナショナル・トロフィーで優勝した個体そのもの。シーズン後半にサイドラジエターの308Bにアップデートされ、今もその仕様に保たれている。



1974 Surtees TS16 [Fittipaldi Class]

<解説> サーティースは、世界で唯一WGPとF1のワールドチャンピオンに輝いたジョン・サーティースが設立したコンストラクター。TS16は1974年用にサーティース自身を中心となって開発したマシンで、ドライバーはカルロス・パーチェとデレック・ベルが務めた。しかしながら74年の入賞はブラジルGPでのパーチェの4位のみ。スポンサーのマッチボックスの関係でプラモデルやミニカーが発売されたこともあって、50代前後の方には馴染みのあるマシンといえるかもしれない。



RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINEとは

1962年に日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは、2012年に50周年を迎え、次の50年に向け新たなスタートをきりました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた本ヒストリックイベントを、2015年より開催しています。

なお、本イベントの前売チケット（大人1日券：2,500円、2日券：3,500円）は、9月23日（日・祝）より販売いたします。

Masters Historic Formula Oneとは

3リッターエンジンを搭載し、1966年から1985年に製造されたF1マシンを使用するMasters Historic Formula Oneは、グラウンドエフェクトの有無、年式などによって四つのクラスに分けられ、ヨーロッパ内でシリーズ戦が行われています。2017年の「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2017」では、同時に11台のヒストリックF1マシンがデモンストレーションを行いました。